

第4次豊明市都市計画マスタープラン 第1回策定作業部会（意見概要）

議題(1)都市計画マスタープラン・立地適正化計画・緑の基本計画の概要について

- ・本編1ページ目の都市計画マスタープラン・立地適正化計画・緑の基本計画の3計画をまとめることについて、ご意見があればお伺いしたい。

<特に意見なし>

議題(2)豊明市の現状と課題について

■2ページ 人口・市街化動向・土地利用・交通に関する課題について

～課題③子育て世代を中心とした定住促進～

- ・豊明市の現状「●子育て世代の転出超過が続いている」と本編にあるが、参考資料の年齢別の人口動態（転入・転出）をみると、わずかに転入超過となっている。
- ・参考資料の子育て世代の転入・転出が多くなっているというのは事実であるが、転出とはなっていない。
- ・第3次都市計画マスタープランでは、20歳代は家を購入する世代ではないため、子育て世代の定義も30～40歳代としている。
- ・子育て世帯の転出が多い要因として、住宅供給が間に合っていないのではと思っていた。このグラフを見ると公的な努力だけではないかもしれないが、住み替え支援などの施策が効いてきているように思う。

【対応方針】

- ・子育て世代の人口動態（転入・転出）に対する分析と要因、また、年代の設定についての意見があった
- ⇒豊明市の現状「●子育て世代のなかでも、20歳代後半は転入超過、30歳代後半～40歳代はやや転出超過となっている」に修正する
- ⇒引き続き、長期的な人口動態分析や要因について検討を行い、内容を精査する

■3ページ 観光・交流に関する課題について ～課題⑤交流促進・にぎわい・居心地の良い場の創出～

- ・豊明市が目指す「にぎわい」について定義づけすると良い。にぎわいとは1日限りのイベントを指しているのか、日常的な交流等のことを指しているのか。「にぎわい」をイベント動員と捉えるなら、例えば、夏祭りの花火大会が豊明市で最大の動員数となる。
- ・一般的に「にぎわい」と聞くと、大きなショッピングモールを連想させる方が多いのではないかな。
- ・豊明市共生交流プラザ カラットで目指しているのは日常的な交流である。市民の活動と参加の機会、人と人の出会いの場の創出を目的としている。
- ・交流という言葉も単に行き交う来訪者を指しているわけではない。人と人が出会って、何らかの活動が生まれる等、人と活動が結びついて、そこに参加するイメージである。
- ・「にぎわい」について定義づけをしてもらえるとソフト施策との結びつきも示せる。
- ・アンケート調査では「にぎわい」という表現を用いている。
- ・課題タイトルのキーワードとして、単に「にぎわい」だけではなく、居心地の良い場の創出を入れた。狙いとしては日常的な交流の場の創出を想定している。

【対応方針】

- ・本市が目指す「にぎわい」のあり方について、引き続き議論し、定義づけを行う

■3ページ 都市基盤・財政・地価に関する課題について ～課題⑥都市インフラと効率的な整備～

- ・財政力指数は国の財源の影響を受けるので下回っている状況がある。近隣の財政力が豊かな自治体に比べれば、慎重に財政運営しないといけないが、歳出側で区画整理など大きな事業をやっているから財政力が悪くなっているといった誤解を生じないような表現に改める必要がある。

- ・課題の説明部分の「未整備となっている都市インフラについては都市計画決定の見直しを行う等」の表現について、新たな都市計画決定の計画も踏まえ、見直しだけではなく、新規整備についても加えた方がよい。
- ・都市計画決定を行う施設については位置づけしていく方向である。
- ・周辺市と明確な比較はしていないが、緑区などに比べて児童館や子育て支援センターは多いと感じていて、決して少ない・充実していないという認識ではない。

【対応方針】

- ・豊明市の現状「◎財政力指数が1を下回るものの健全化判断比率のすべての指標は「健全」な結果となっている」に修正する
- ・課題⑥の説明部分「また、限りある財源のなかで、効果的で効率的な整備を進めていくためには、新規整備だけではなく、未整備となっている都市インフラについては都市計画決定の見直しを行うことを含め、今後のあり方を含めて検討していくことが必要です」に修正する
- ・豊明市の現状「◎児童館や子育て支援センターなどの子ども・子育て支援施設が整っている」を追記

■4ページ 緑・環境に関する課題について

- ・近年、子育て世代の遊ばせ方が変わってきている。屋外ではなく、屋内遊戯場が人気である。土や泥のところで遊ばせる人は少なく、ショッピングモールのようなところで遊ばせるイメージである。
- ・公園のニーズ、使われ方が変わってきている。市民意識調査で「●公園や遊び場が整備されていない」との意見がある。
- ・本市の特徴として学校開放でグラウンドや遊具を利用することができる。近隣市では開放していない所もあるため、子どもの遊びの場のインフラとして学校を捉えると良い。公園に近い場として学校が利活用できることも1つの強みとなる。

【対応方針】

- ・豊明市の現状「◎市内の小中学校の運動場や体育館などの施設を地域住民のスポーツ活動の場として開放している」を追記する

■4ページ 安全安心に関する課題について

- ・「◎住宅の耐震化が進んでいる」という表現について、実際に住宅の耐震化に補助を出して対応している状況があるため、「耐震化を進めている」と表現を改める。
- ・「●市街化調整区域および一部の市街化区域で土砂災害が想定されている」という表現は適切か。例えば、三崎地区では対策工事を実施したので、解消されたのではないか。
- ・対策工事は実施したが、土砂災害警戒区域としては残っている。区域に指定されているという表現が適切である。
- ・課題の説明部分の「防犯力の維持・強化及び交通安全対策の充実に向けて、その解消を図る」について、「充実に向けて、その解消」という表現は見直した方がよい。

【対応方針】

- ・豊明市の現状「◎住宅の耐震化を進めている」に修正する
- ・豊明市の現状「●市内には土砂災害の警戒が必要な区域がある」に修正する
- ・課題⑨の説明部分「また、狭隘道路が分布している一部の地域においては緊急車両の通行や避難路の確保、防犯力の維持・強化及び交通安全対策の充実を図ることが必要です」に修正する

議事(3) 豊明市の将来都市構造図について

<特に意見なし>

議事(4) 防災指針の概要について

<特に意見なし>